

外国人の親を持つ子ども達との教育現場における課題と考察

有澤、和泉、江口、黒岡、安田、山本

活動目標

1. 在日外国人の進学率が低いことに疑問を持ち、進学率を上げる為に学習環境の提供など私たちにできることを学ぶ。
2. 外国籍の子どもの保護者が日本語話者でない場合や、文化的背景から生まれる課題について学ぶ。
3. 文化への理解や、教育に関する意識などの乖離から生まれる親子間での溝をなくすためにできることを考える。

インタビュー内容

50代 ブラジル人 既婚女性（日本人の夫&息子）
日本在住30年の方にインタビューを行った。
内容の一部を抜粋し、記載する。

Q. 日本に来て困ったことは？

A. 文化の違いや、日本語を上手に話すことができなかったことにより職場で馴染むことができず孤立していたこと。

Q. 育児をする上で感じたことは？

A. 子供の頃は日本語・ポルトガル語の両方の言語を教えていたが、日常的に使用する日本語が母語となり、親子間で日本語能力に差が生まれた。

Q. 子どもが小学校に通う際、困ったことなど教えてください。

A. 教育のシステムや、準備物などの説明を十分に受けておらず、理解することに時間がかかった。周りの保護者からの支援により課題は解決した。

Q. 日本とブラジルの子どもの一番の違いは何？

A. 日本の子供たちの暴言など日常的な言葉遣いが気になる場面があった。

Q. 日本との文化の違いで感じたこと

A. 習い事や部活動に対する熱量。日本人はまじめで休むことがほとんどない。一方ブラジル人は対照的で、自由に行きたい時に行く為、国民性を感じた。

Q. 在日外国人の子ども達が過ごしやすい環境を作るために、我々ができることは？

A. 見た目や、家庭での生活など目立つ場面も出てくる。文化の違いなどを周りの大人たちが知り、フォローしてあげることが大切である。

GS 期間中の主な流れ

・事前学習 - 8月上旬 -
ブラジルとの交流の歴史について学ぶ
インタビュー内容の草案を作成



・期中学習 CBK での活動
移民ミュージアムの見学
日本語の学習支援・ポルトガル語講座
在日ブラジル人の子ども達と交流
日本文化紹介
日本に暮らす外国人の方にインタビュー



・事後学習 - 9月前半 -
インタビュー結果の振り返り
ポスター制作



NPO 関西ブラジル人コミュニティ (CBK) について

日本に住むブラジル人が、地域の一員として暮らすために、サポートを行うことや、異国籍の人々が交流できる場を設けることを目的とした施設。

考察

- ①教育的な情報などを正しく伝えるためには、周りの保護者の協力が必要である。
- ②親子間でも日本語能力や文化への理解度に差が生まれる。その際に生まれる親子間の溝は、時間が解決する。
- ③日本で暮らす外国人が最も必要なことは、日本語を理解することである。日本人が最も必要な配慮は、必要以上の配慮をするのではなく、普通に接する。
- ④CBKで活動を行える家庭は、高校進学すら困難である世帯ではないと考える。施設の認知度は不足しており、手助けしてくれる場所の存在を知ることが文献で見た家庭への支援になると感じた。
- ⑤子ども達は学校などで、コミュニティーを形成する。しかし、大人になるにつれ困難となり他者との交流から学ぶことができない。

まとめ

外国人の子ども達が異国で教育を受けるにあたり保護者の存在は、とても重要である。両親の文化的な理解が子どもの学習環境を整える要因につながる。

大人と子どもの成長スピードは同じではなく、子ども達は大人を抜き、逆転現象が起こる。その際に、親子ではない第三者として手伝える部分を理解し配慮しなければならない。





ポストコロナ禍の新たな観光対策 ～神戸の魅力を多言語で世界へ発信～

観光学科：久保田、清水、柏木、山崎、内田、マイチン



コロナ前

- モノの消費
- 観光地の情報発信
- 単純観光団体旅行

コロナ後

- コトの体験
- 観光地のSNS発信
- 個人単位学習観光

新たなインバウンド誘客に向けて
「ホスト・ゲスト協働による魅力的な神戸地域を
世界に多言語で発信」

大韓民国

少子高齢化→出生率世界最低
兵役義務者の減少
日本の4/1の面積、
人口：約5,173万人、ソウルに集中

経済状況
2022年度国内総生産
1位アメリカ 2位中国
3位日本・13位韓国

人気観光地
1位大阪、2位福岡、3位京都
4位東京、、、9位兵庫
訪日外国人数
2023年1~6月312万、方韓日本人86万、
円安、地方にも観光地が多い

サンミョン大学との交流

- グルメ旅行に最適
- アンパンマンミュージアム
- 新しい建物が多い
- 西洋×日本

新しい施設や現地の人の
みがあるお店を知りたい
家族と一緒にいきたい
海や港を見てみたい

- 地震
- 海がある
- 神戸牛が有名

強み→テーマパークが多い
弱み→編集スキルが低い

「今後どうしていくか」
編集スキルを高める→多くの人の記憶に残る映像を作成
atoa→新感覚の都市型水族館or「食」を体験してもらう
リピーター層を大事にする
オーバーツーリズムの防止・多くの魅力を再発見できる

強み→編集スキルが高い・アニメーションを使用
弱み→地方の観光地の競争力が弱い
ソウル、釜山、済州島に集中

良かった点

- 何事もなく全日程を進めることが出来た
- 編集の大変さを学びスキルを高めることが出来た

反省点

- 入念に計画を立てておくべきだった
- 誤った情報を投稿しようとした

神戸観光局 HPです

EXPO 2025

全体を通しての振り返り

- 社会には様々な人がいることを学んだ
- 様々な意見を聞く必要があることを学んだ
- 字幕のテンポ、タイミング、フォントの雰囲気など動画作成に必要なスキルを学んだ
- 素材不足にならないように工夫しながら撮影することを学んだ

TRAVEL SHOW IN KOREA 実際、海外へ挑戦した成果 日本語・英語・韓国語・中国語・ベトナム語の5カ国で発信中

再生回数 11万回超え

Sydney Program



ベンチャー・メイカーズ“ジェネレーター”は、新規事業が行う世界的な活動の機会を展開するため、新たな起業家を支援することに焦点を当てた没入感の高い起業家トレーニング体験です。



LAUNCH PAD
Technology Business Incubator

受賞歴のあるウェスタン・シドニー大学のローンチ・パッド・テクノロジー・ビジネス・インキュベーターが産業界と共同で開発・提供するベンチャー・メイカーズは、世界トップクラスの没入型起業家教育体験を提供します。

VENTURE MAKERS PROGRAM

私たちは12日間にわたって学習とチームワークを行い、その後、私たちはSDGsの目標を活用して新しい製品を取り入れるためのアイデアを3つ発表し、このプログラムの旅を終えました。

短期ベンチャーメーカー起業家精神コースは、学生チームが人工知能(AI)の能力を活用して持続可能な開発目標(SDG)に関連する問題を具体的に解決しよう求められるプロジェクトベースのカリキュラムです。コースの特定のPBL形式自体は新しいものではありませんが、このプログラムは、実践的な方法で具体的な問題を解決するための「無駄のない」問題定義と問題解決アプローチを強調した、起業家精神にあふれた「スタートアップ」アプローチに特徴がありました。



原住民アボリジニ

原住民アボリジニの人の話を聞きました。アボリジニの人の生活や経験、音楽なども聴くことができました。



ポスター作り

環境問題について訴えるために自作でポスターを作り、印象付けることができるポスターを自ら考えました。ポスターを作るときのいくつかのポイントを教わり、どう簡潔で印象深く伝えるかを考えて作り上げました。



Lingo Mingo

Lingo Mingo:このアプリはAIを活用した言語学習アプリです。音声認識はもちろん、各ユーザー個人に焦点を当てたカリキュラムや対話型チャットボット、スピーキングを鍛えるための会話練習などの機能を提供します。世界的な教育の質の向上に貢献するため、語学学習コースのグローバルなオーディエンスをターゲットとしています。

Recycling with A.I

このシステムは様々な完全自動システムを含んでいる。利用者の情報をシステムを通しビッグデータ化することによって形のない利用者達のコミュニティを作ると共に、マシンラーニングを使用して、利用者を増やすためにそれまでのコミュニティから顧客の情報を使用し使いやすさなどに昇華させていくことにより全世界に広がることを期待している。また、現存している方法で起こる環境、人間の健康生活のダメージの観点から、商品のタグなどから顧客に服の情報を入力してもらうことにより分別を簡略化し、産業廃棄の可能性を減らす事にもフォーカスする。そこに我々が必要としていることはAI技術であり、現存している技術にプラスして、マシンラーニングによる特化した技術の向上を期待している。そしてこれらを利用し、人間の健康的な生活を損なうことなく、地球環境に強く関与して行くことを目指している。

HaBeSu Station

AIを活用して料理を完成させる自動コンベアラインを構築するというアイデアです。消費者は賞味期限が近づいた食品を持参し、スーパーで安価な賞味期限切れ食品と組み合わせれば、すぐに食べられる便利な一品となる。日々捨てられる食品の量を減らし、環境を守るSDGsの目標を踏まえたアイデアです。

ACTIVITIES IN SYDNEY



私たちは、大学のさまざまなキャンパス、現代製造博物館、発電所博物館などに行き、そこで現地活動に参加しました。そしてスタートアップについては、専門家たちは多くのアドバイスをくれました。そのアドバイスは私たちにとってとても有り難かったです。

GS から何を学び、どのような教育的利点が得られたのでしょうか？

オーストラリアのベンチャー メーカー プログラムは2週間で私を変え、快適ゾーンから抜け出し、文化的感受性を高めました。人前で話す私の弱点を強みに変え、効果的なコミュニケーションを教え、起業家精神と SDGs に没頭しました。課題が私たちの力を磨きました。この忘れられない旅で、私は必須のスキルを身につけ、起業家精神とイノベーションに対する情熱を形づくることができました。

これはおそらく私がこれまでに経験した中で最高の経験の1つでしょう。Venture Makers は私の考え方、知識、スキルを変えてくれたプログラムです。決して忘れられない最も美しい思い出を与えてくれた素晴らしい人々に出会う機会がありました。

この2週間で、ビジネスの面白さ、難しさを学ぶことができました。ビジネスとは何かを深く考える日々になりました。この学びを勉学や将来に生かしていくことができると信じています。私の専門の「教育」とGSの「ビジネス」をつなげることができ、新たな知識、発見となり、1歩成長することができました。

ベトナムにおける気候変動・減災対策フィールドワークと防災教育の実践

Learning Objectives(2023.9.9~21 in Vietnam)

本プログラムは、「安全・安心」への意識および行動に関する比較を通じて、今後アジア圏で求められるグローバルな防災教育についてリサーチを行い、それを踏まえた防災教育を実践した

- 多国籍の学生との共同リサーチ・グループワーク (2~11日目)
- 防災教育の出前授業(4日目) (5・6日目)
- 災害被災地訪問、被災者インタビュー (Hoa Vang, Hoa Bac)
- アジアの共通課題・講義を受ける (3日目)
- 自然災害への備えの提案をACP会議でプレゼン(10・11日目)

Interview

Q,ハザードマップはこの村にありますか?
A,住民が主体となって地区防災計画を作成し、行政に提案している

Q,コロナ後の農家の生活について教えてください
A,飼料の値段が上がって厳しさが続いている

Q,村人たちの間で普段から協力活動は行われているか?
A,祭りがあって村人たちはイベントを通じて普段から協力し合っている

インタビュー動画 



DRR education at Tieu La Elementary School with Developed Game Contents

1班【防災ダック】
6つの災害カードに合わせて動物になりきり災害直後の行動を考える



2班【防災バッグ】
37枚のカードから9枚のカードを選び、非常用持ち出し袋の中身を考える



3班【防災クイズアプリ開発】
洪水・津波・台風から自分の命を守る為の行動を学ぶクイズ



4班【タイムライン】
地震発生時の正しい行動をカードの並び替えで学ぶゲーム

Preliminary and Reflection Learning

事前学習
【アミグ潮江商店街】



事後学習
【神戸野田高等学校】

First Shocking Event -Urban Traffic Jam -

ベトナムではバイクが交通の主流である 出所：国際交流基金アジアセンター
・道路横断が容易ではない



〈バイクが主な交通手段の理由〉

- ・車の販売価格が高い
- ・50cc以下の免許が必要ない
- ・歩行者優先の概念がない
- ・四輪車が通るには狭すぎるため小回りが利く
- ・駐車スペースの不足に伴いバイクはどこにでも駐車しやすい
- ・電車やバスなどの公共交通機関が未発達
- ・14歳以下の場合1人まで乗せることが可能。合計3人OK！
一定の年齢以下の子どもは4人でのバイクはOK

〈メンバーリスト〉

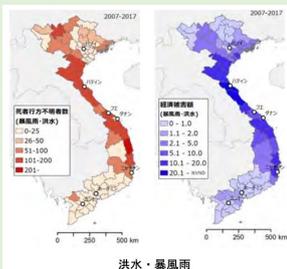
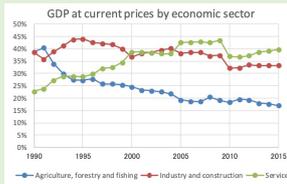
【経営】三村暉、松葉潤、植田愛美、入江優樹 【教育】野俣仁、魚住都良 【心理】寺澤杏香、金子一花

社会構造と災害

文献調査・仮説

【現状・課題】

- 農業国のイメージがあったベトナム国の経済基盤は、もはや製造業・サービス業が主体である
- 農林水産業の従事者は横ばいであるがそのGDP比率は大きく低下している
- 86%がキン族、山間部に少数民族
- 地域別で見ると、北部にハノイ、南部にホーチミンの2大都市圏がある。
- 中部域にあるダナンでの洪水暴風雨の被害が極めて大きい
- 国全体としての統一的な防災計画が提示されていない



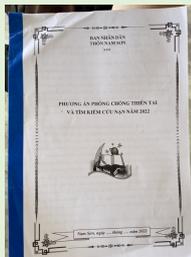
【仮説】

経済発展に伴う大きな社会構造の変化・気候変動による災害の激甚化に伴い、都市部や農村部における災害対策が追いついていないのではないかと

フィールド調査の結果

【現地でも調べたもの】

- ##### 【山間部】
- ダナン市の洪水対策、農業灌漑対策でダムを建設
 - ダム建設により少数民族の村人たちが居住地を移転させられていた
 - 少数民族はこれまでの生業を奪われより厳しい生活を強いられていた
 - 民族固有の伝統的な祭りが行われていた



- ##### 【農村部】
- 畜産家は残飯を飼料として活用していた
 - コロナや水害の影響を大きく受けていた



〈防災上の取り組み〉

- 地域によっては独自の取り組みを行ってれば、二の次になっている地域もある
- 水害対策で天井高を上げている家もある
- 村が主体で防災計画を作成し、国・県に提示している
- (ボトムアップ式の地区防災計画)

考察

- 経済的な打撃を乗り越えるために都市部の残飯を家畜の飼料に有効活用していたが、結果的にSDGsつながる活動になっていた
- 気候変動の影響をダナンは強く影響を受けており、災害と環境は深く結びついていると見られる

- 自身の災害経験・教訓にのみ基づく対策を行なっているのでは
- 科学的なデータや分析に基づく災害対策がより必要である (高精度ハザードマップの整備など)

<プログラムを通して得たもの>

- プレゼンを通して、より興味を持ってもらえるような資料や動画を作ることが、いかに発表する際に必要になるのかを考えさせられる機会になった
- 初めはうまくコミュニケーションを取ることが出来なかったが12日間を通して、次第に心の地図から境界線が無くなった
- 異国の地での2週間は長いようで短く、ベトナムで体験した異文化は貴重なものになった
- 3カ国の学生が集まりグループでプレゼン内容を考える際に 自分の意見を伝えようとしたことで英語力や意見・交換調整力が身につけることができた

<これからに向けて>

- 今回開発した教材を元に日本に合わせた形で防災教育を行っていきたい
- 英語力の必要性を感じたため、語学学習に取り組む
- 今後海外に行く機会があった際には今回経験したことを活用したいと強く感じた
- 日本も地域防災の取り組みは行われているが、ベトナムで学んだような踏み込んだ深い形での住民主体の地域防災を行えようにしたい

防災教育

文献調査・仮説

【現状・課題】

- 教育開発戦略に基づき一応防災教育が実施されているとされている
- 災害に対応する知識や技術、自分自身を守るスキルを教えている
- 小学校高学年（12歳児）がコミュニティ防災の伝達者になっている
- 政府自体が体系的な取り組みを行っていない
- MOET（教育訓練省）防災教育の基本方針に沿って災害リスクの予防と緩和に関する教材の開発や水泳指導プログラムの開発推奨などが散発的に行われている
- 外部ドナー（JICA, NGO etc...）からの一時的な教育
- 学校カリキュラムに組み込まれていない

【仮説】

小学校教育を充実させることがベトナムの災害に強い街づくりには重要ではないかと



現地での防災教育の結果

- 身近に水害があるために対策を行っていた
- 学校で水泳の訓練を行っていた
- 溺れる前提の水泳トレーニングになっていた
- 日本：避難重視
- ベトナム：最小限の被害重視



- 日本に比べるとベトナム全体的に災害対策の進展が遅れている印象
- 今回のプログラムで多様な災害の知識を提供することができた
- 防災教育を行った時の児童の反応が良かった
- 楽しく防災を学べる機会をもっと増やせば良いと感じた



考察

- 日本の防災教育の経験や知識は非常に有用である
- 例) 西条市がフェエ市に防災プログラムを提供
- 小学校高学年を地域コミュニティ防災の普及のキーマンとして養成する考え方はユニークであり、有益である
- 主要ドナーによる防災教育が実施されているが、それらの成果や教訓について、地域でこれまで行われてきた防災習慣や活動とも融合させつつ、学校カリキュラムに取り入れることが有用
- 日本のように、1年に1回は防災について考える日を設けてみる
- 水害にどう備えれば被害を最小限に抑えられるかを子どもとともに考えるプログラムが必要がある





GS 2023春夏 シンガポール

SDGsの領域でグローバルな学び



プログラム内容



PV-リンク

オンラインによるサマープログラム

【シンガポール・ナンヤンポリテクニク (NYP) との国際チームによるPBL型GS】SDGsの統合的な領域で、「安心・安全な」未来社会の創造について、アントレプレナーの観点から、海外の学生たちとディスカッションしながら、ともにグローバル・グローバルなイノベーションをしよう！

ICTをフル活用して、現地に行けなくてもNYPの学生と同じバーチャルな教室で同じページで学びを共有していった。



:Padlet



Flipgrid

GS 2023プログラム取組発表

シンガポール

シンガポールのナンヤンポリテクニク (NYP) との協働型PBLによるSDGsの領域でのソーシャルアントレプレナーシップのプログラム



Padletリンク

学びの展開



この活動を通じた気づきの共有

いつも教室内・学内で顔を合わせて学ぶ仲間たちに加えて、会ったことがない同年代のシンガポールの学生たちとSDGsについて問題意識や取り組み方を共有することができた！

受講生のふりかえり

現地に居なくても、ICTの発展によりネットワークの中で同じ物を共有できるようになった。これにより、人類が宇宙に版図を伸ばしていった後も、地球にいるときと同じような状況で学びを得ることができるようになるのではないだろうか。

時差の違い、カリキュラムの違いを克服するために、ICTフル活用で非同期型の学びの展開
一度も会って話したことがない仲間と共に学ぶ！

1. 共感によるチームビルディング (エンパシービルディング)
2. Padletキャンパスでいつでも同じページで学びを共有
3. 言語の壁もICT活用で、日本語と英語で同時にディスカッション
4. プレゼン動画、PPTで、非同期型でプレゼン、フィードバックをおこなう。
5. お互いに認め合う関係づくり

気づき

異なる文化、価値観、社会的課題について学び、ジェンダー平等、教育、健康、人権、社会的インクルージョンなどのテーマを探求できます。異文化への理解を深め、社会的な問題に対処するスキルを養います。

グローバルスタディを通じて学んだ知識を実際の課題に適用し、プロジェクトや研究を通じて解決策を模索します。国際的な組織やNGOでのボランティア活動やインターンシップも検討する価値があると思います。

■ どんなプログラム? ■ 学びの展開 ■ 気づき

Sources of Information

* 2022年度夏学期グローバルスタディシンガポール (ナンヤンポリテクニクビジネス&マネジメント学部との協働型ソーシャルアントレプレナーシップの授業です。)

**ICTをフル活用し、実際に現地に行けなくてもナンヤンポリテクニクの学生たちと協働型のアクティブラーニングができるようにデザインしてみました。

*** 英語でのコミュニケーションがあまり得意でなくても、AIを活用して、多言語間でのコミュニケーションが可能なように工夫してみました。

✉ to-yamamoto@kuins.ac.jp

☎ 2078-341-6060 (237)



GS（シンガポール） 学びのふりかえり

氏名	Q.No	2. ナンヤンポリテクニクのプロジェクトチームについて、何かコメントがあれば、書いてください。
林 大翔	2	私は、初めて海外の大学とGSといった形で交流して様々なことを学べた。特に語学面について少し鉛のある語源だった。とても役に立ちました。提案や解決をしっかりと出して、よく勉強できました。これから、SDGsに向けた取り組みの一部であり、個人、組織、政府が共同で実施することで、より持続可能な未来を構築するのに役立ちます。SDGsの達成に向けた行動が重要であり、個人やコミュニティの協力が不可欠だと思います。
ダウ ティ フォン	2	このチームは役割分担を通じて迅速に課題を完了しました。私はそこから多くの知識を得ることができました。
姜 沐	2	ナンヤンポリテクニクのプロジェクトチームは取り込んだものを勉強しました。将来、日常生活や職場で助かります。
張 林	2	シンガポールで提供されている国際的な学際的なプログラムや学習体験があります。シンガポールは国際的な教育機関が多くあり、異なる国からの学生が異文化を体験し、多様な視点を持つ機会を提供しています
シュウ シデ	2	国際的な視点の養成、多文化共感、キャリアの機会などのところに役に立つと思います。グローバルスタディは、異なる文化、歴史、政治、社会、経済についての理解が深まり、国際的な問題に対する洞察力が養われます。
山中 裕陽	2	凄くしっかりできていて私も負けないように頑張ります

氏名	Q.No	3. GS（シンガポール）はあなたにとってどんな「新しい学び」がありましたか？
林 大翔	3	シンガポールの大学はどのような大学でどのように授業が進められているのか。またどのような人がこのグローバルスタディを受講しているのか。色々なことが知れ、色々なことが学べたと私自身実感している。シンガポールの人はどのような言葉を使いどんな発音なのかも知れた。SDGsについてしっかり勉強できました。特に、世界の中でまた戦争が続いて、とても悪影響されました。子供が将来の粉なのに、無罪で死んでしまっていて、とてもかわいそうだった。それこそ、SDGsに関する問題解決方法を大事になってきた
ダウ ティ フォン	3	持続可能な開発のために世界中の政府、企業、市民社会などが連携し、共同で取り組むべき重要な課題とされています。SDGsの達成は、貧困削減、社会的平等の減少、環境保護など、世界の持続可能な未来を築くための重要なステップとされており、国際的な共同努力が必要とされています。
姜 沐	3	言?スキルの向上：他の国の学生と一緒に交流したり、学習したことにより、新しい言?を習得する機会が増えます。外国?を習得することは、国?的なコミュニケーションやキャリアの面で非常に効用です。特に英語を勉強しました。なぜかという、日本語を勉強して以来、英語を勉強してなくて、だん
張 林	3	だん英語の発音や文法などを忘れてしまいました。また、他の人の発表や自己紹介に対して、評価するを通じて、発表のやり方などを勉強しました。まず、SDGsについて勉強し、理解してきました。SDGsを学ぶことは、個人に行動を起こすインスピレーションを与えます。持続可能な開発への貢献は、小さなスケールから大きなプロジェクトまで、個人や
シュウ シデ	3	コミュニティができることが多くあります。SDGsを学ぶことは、問題解決能力を向上させます。これらの目標は複雑な課題に対処するための指針を提供しており、問題の原因を分析し、解決策を見つけるスキルを育むのに役立つと思います。
永野 太一	3	国外の大学の生徒とSDGsといった世界全体に関連するテーマについて探求し、国際的な問題について洞察を深めることができたと思う。また、国際社会でのキャリアや活動に役立つスキルを磨くことができた。
山中 裕陽	3	まずはsdgsについて、深い学びができました。授業だけでなく、授業資料などを作成するために24個の目標をそれぞれしっかりと調べて、深く理解しました。その他には、海外の方々との交流など。実際に交流をしていたというわけではありませんでしたが、海外の人の動画を見て評価をつけたりしたのは、間接的に交流しているみたいで楽しかったです

氏名	Q.No	4. この先、どんなことを探求していきたいですか？
林 大翔	4	私がグローバルスタディでシンガポールを選択した理由は、将来シンガポールに旅行に行きたいと思っており、シンガポールはどのような国でどのような言葉を使っているかそういったことが学びたくてシンガポールを選択した。実際に今回このグローバルスタディを受講してシンガポールの人は、鉛のある英語を話すことが分かった。この学びはとても大きなことだと思う。なぜなら、今後シンガポールに行くまでに対策ができるからだ。今回のこの授業で学んだことを今後旅行に行く際に生かそうと私は思う。今回の授業はとてもいい経験であり、多くのことを学べたと思う。
ダウ ティ フォン	4	SDGsの16番目のゴールでの「平和と公正をすべての人に」を心からより探求していきたいです。みんなでお互いに、声を出し、行動をしていこうというイメージを現実にしたいです。
姜 沐	4	大学の成績を高めていくことが大切だと思います。
張 林	4	4 人生の意義を探究していきたいと思っています。異なる文化、価値観、社会的課題について学び、ジェンダー平等、教育、健康、人権、社会的インクルージョンなどのテーマを探究できます。異文化への理解を深め、社会的な問題に対処するスキルを養います
シュウ シデ	4	4. グローバルスタディを通じて学んだ知識を実際の課題に適用し、プロジェクトや研究を通じて解決策を模索します。国際的な組織やNGOでのボランティア活動やインターンシップも検討する価値があると思います。
永野 太一	4	4 国際政治や国際文化、環境問題など世界全体に関連するテーマについて探求したい。sdgsについて学ばば学ぶほど、世界の教育格差や貧困問題などが気になりました。現在の私の力では
山中 裕陽	4	4 微々たることしかできないので、もう少し大人になってから、教育格差や貧困問題を解決できるような人物になれるように今後は過ごしていきたいと思っています。



GS 2023春・夏 (台湾亞洲大學・サマープログラム)



LEARNING EXPERIENCE

INTERNATIONAL EXPERIENCE

どんなプログラム？ | クロスカルチャー

サマープログラム活用型グローバルスタディー (クロスカルチャーの経験学習)

【特徴】

- ・ 親日国の台湾で留学気分が味わえる
- ・ 世界中の大学生が参加・海外の大学生とディスカッションができる！
- ・ 台湾の文化(衣食住・伝統文化・社会の価値観など)について、英語と中国語で学べる！
- ・ 日本文化と比較することで、日本の社会や文化についての理解が深まる！



Start: July 15 - August 18, 2023
 Credits: 3
 Language: Mandarin taught (Language) / English taught (Culture)
 Delivery: In-person and online - synchronous, two modes of delivery available
 Total Hours: 54 hours
 Tuition fees: USD 480 (in person) / USD 300 (online) (Tuition waiver for 4th partner universities)
 College Website: <https://kuins.ac.edu/>

Asia University (AU), one of the most beautiful campuses in Taiwan, provides you with a unique and diversified learning experience this summer. Our summer program "Language and Culture" is designed to meet the needs of those who want to explore the richness and diversity of Taiwanese society and culture in combination with the acquisition of Mandarin Chinese, one of the world's major languages. Courses cover a wide range of topics, such as Taiwanese food, Hakka, festivals, etc. These subjects credits will be awarded by the University after the completion of the program. Students are expected to develop their cross-cultural awareness and expand their international networking as well as their global perspectives.

About the Program
 This 8-week program includes intensive Mandarin Chinese and Taiwan culture and society. The Mandarin Chinese class covers various topics: "Chinese for Daily Usage", "Chinese for Traveling", "Chinese for Social Life", and "TOPIK (Test of Chinese as a Foreign Language) Preparation". Our engaging language instructors will help you improve your oral and written Mandarin Chinese and become familiar with various aspects of Taiwan culture and society.

The Program Features
 In this program, you will attend class six hours a day. All of our Mandarin Chinese instructors are experienced and passionate for teaching. A teaching assistant is assigned to each class to help students solve learning and technical problems to ensure maximum learning outcome. We also arrange hours of cultural per week.

Curriculum for Language and Culture		
Course Content	Hours	Module Components
Writing Chinese, Chinese conversation, Academic Test	3	Lecture
Lesson for Daily Usage	6	Lecture
Lesson for Traveling	6	Lecture
Lesson for Social Life	6	Lecture
TOPIK Prep	3	Lecture
Local Cultural	12	Lecture & Workshop / Tutorial
Excursion	3	Tutorial
Field Trip	3	Field Trip
Self-Learn & Closing Ceremony	3	Lecture
Total	54	

Module Components	Teaching hours	Assessment
Lecture	24	Classroom
Lecture & Workshop on Cultural Tutorial	12	
Field Trip	3	Workshop
Assignment Method	Percentage	
Attendance	20%	Classroom
Participation / Presentation	25%	Workshop
Assignment	25%	Workshop
Final Exam	25%	Workshop



どんな学びの展開 | Language & Culture

アジアの様々な国々から学生が参加した。授業での共通言語は英語、台湾や中国の文化、台湾の原住民族の伝統文化を学んだ。

学びからの気づき | Global Awareness



自由記述による学びの振り返り



プログラム EDUCATION

担当教員 4人・TA 4人
 (大学生高校生中学生)
 受講生 (50人)



日本人9名
 (本学8名)

学びの環境

自由記述による学びの振り返り

3週間の対面授業形式
 週末にはフィールドワーク



新たな学び

インタラクティブな対面授業 & ICT活用の学習環境

Topics:

修了サーティフィケート



GS Office: iec@kuins.ac.jp
to-yamamoto@kuins.ac.jp



078-341-6060



- どんなプログラム？
- どんな学びの展開
- 学びからの気づき
- 学びの成果

GS(台湾)2023 サマープログラム

学びの成果

1 国と国の繋がりと絆
"Aika university summer program 2023 in Taiwan"

2 Hello! (自己紹介)
自己紹介の目的、参加者の自己紹介、自己紹介の感想

3 1 目的・学習目標について
"本プロジェクトに参加した学生の「学びの目的、本気で設定した学習達成目標」
世界中から集う同年代の大大と交流し、同じクラスで台湾の共生社会についてグローバルな視点から学ぶ

4 海外からの学生との協働学習の内容
自己アビレールビデオ (多言語版)
RipGrid/Padletで共有
どんな学びがあったのかを報告する
異文化の共有
異文化の共有
コメント、フィードバック

5 海外の参加者学生との協働「学びの共有」

6 どのような学習活動をおこなったか?

7 ～待空を超える学びの旅～ 歴史の面白発見!!
* 歴史の面白発見!!
* 歴史の面白発見!!
* 歴史の面白発見!!

8 ～臺灣大学の授業と風景～
* 中国語の意味の教えとして英語を用いた学び
* 語学以外の学びとして留学学生との交流

9 ～手延びだったこと～
* 結果の学び
* 結果の学び
* 結果の学び

10 ～音楽と運動が楽しくコミュニケーションの深化～
* Sports Day
* 音楽で繋がる仲間との絆

11 チャレンジだったこと
* 今まで経験したことのない
* 今まで経験したことのない

12 さらけ出し手延びのフィードバック

13 氏名 藤原 美穂
～留学で得たこと～
① 留学の楽しさ
② 授業の楽しさ
③ 授業の楽しさ

14 氏名 山本 理緒
～留学で得たこと～
① 授業の楽しさ
② 授業の楽しさ
③ 授業の楽しさ

15 氏名 山口 舞音
～留学で得たこと～
① 授業の楽しさ
② 授業の楽しさ
③ 授業の楽しさ

16 氏名 田中 美穂
～留学で得たこと～
① 授業の楽しさ
② 授業の楽しさ
③ 授業の楽しさ

17 氏名 藤原 美穂
～留学で得たこと～
① 留学の楽しさ
② 留学の楽しさ
③ 留学の楽しさ

18 氏名 村上 大夢
～留学で得たこと～
① 留学の楽しさ
② 留学の楽しさ
③ 留学の楽しさ

19 氏名 渡辺 あり
～留学で得たこと～
① 留学の楽しさ
② 留学の楽しさ
③ 留学の楽しさ

20 国と国の繋がりと絆
"Aika university summer program 2023 in Taiwan"
Thanks!
Any questions?

交換留学(韓国・ソウル)

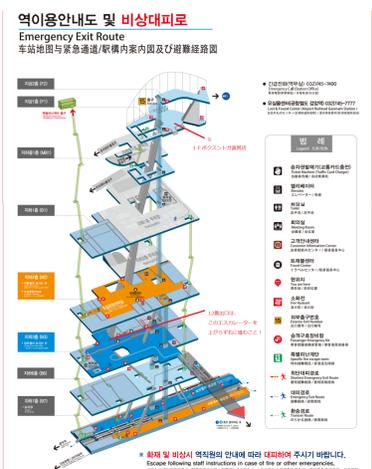
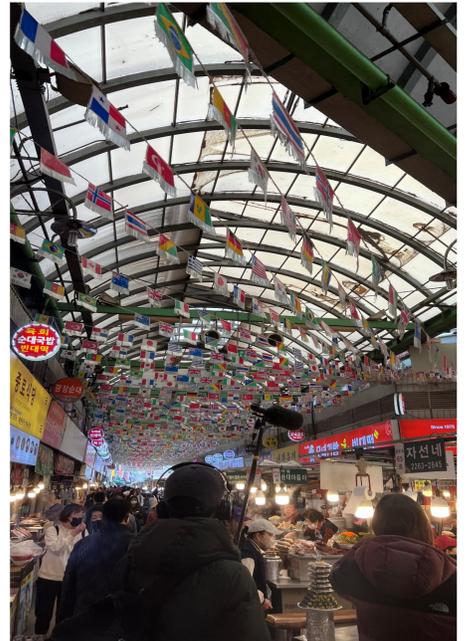
祥明大学校 教育福祉学科 5211027 越智 遥菜

<目的>

- ・異文化理解
- ・言語取得と言語コミュニケーションについて

<韓国生活～日本との違い～>

- ①シャワー文化
- ②空気(미세먼지[ミセモンジ])
- ③学食(ワンプレートと2種類のお米)
- ④カフェ文化
- ⑤タッチパネル注文・キャッシュレス
- ⑥地下が多い



<留学生プログラムと韓国文化・歴史>

1. バディプログラム

留学生(学部生を含む)と現地の学生が6～8人程度でグループを組み、
現地の学生が考えたプログラムに沿って活動する
(一緒に食事をしたり、施設に行く等)

2. 国際サークルSISO

海外に興味のある現地の学生と留学生が関わるサークル
(多言語で会話したり、一緒に食事をする等)

3. 授業での訪問「韓国文化入門」

韓国の歴史的建造物に訪問したり、その施設や韓国の様々な文化について
学ぶ留学生向け授業



<日本の人気>

最近、日本ではK-POPや韓国料理・カフェなど韓国ブームがきている。実際、韓国に行ってみると韓国でも日本は人気があるようだった。海外で特に人気があるのはアニメ。韓国もそうで、漫画やアニメのグッズが売っている「アニメイト」というショップが韓国にもあり、日本の漫画が翻訳されたものが売られていた。それから、日本のNetflixでは見ることが出来ないがm韓国ではNetflixでジブリを見ることが出来るため、ジブリの人気も高かった。また、日本食も人気であり、日本食を売っている店舗もよく見つけた。実際に食べて見ると、韓国人向けの味付けになっており、日本と同じものというわけでは無かった。大型スーパーには日本の調味料も売っていた。



<まとめ>

韓国へ交換留学に行き、交換留学だからこそ経験出来たことが沢山あった。言語留学で語学堂に通っているのは、大学でのサークルや韓国文化について学ぶことは出来なかったし、現地の学生と関わることも出来なかったと思う。韓国の学生とも関わったし、他国の留学生とも授業や生活を通して文化の違いや言語コミュニケーションの難しさなどを学ぶことが出来た。